

ヤシ剪定ロボ開発提案 都城高専グランプリ 宮崎市で学生ビジコン



グランプリを受賞した都城高専チーム
(宮崎銀行提供)

県内の大学生らが独自のアイデアを披露する「宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」(宮崎大、宮崎銀行など主催)の決勝プレゼンテーションは4日、宮崎市のメディキット県民文化センターであった。応募27組の中から予選を勝ち抜いた9組が出場。都城高専の4人が発表した「剪定ロボット開発班」(南国リゾートの景観を守る)がグランプリと宮崎銀行賞をダブル受賞した。

受賞した4人は、機械電気工学専攻2年の坂本真偉夢さん(22)、▽1年の瀬戸山悠貴さん(20)、▽機械工学科3年の大園嘉友さん(18)、▽高森来時さん(17)。

発表したプランは、人工知能(AI)カメラを搭載し、ワシントンニアバームを自動昇降する剪定ロボットを県内企業と共同開発し、業者に年間リースするビジ

ネスモデル。伐採した枝を高所作業車でなく、シューターで地上へ降ろすことで「コスト削減や安全性確保も実現できる」とし、全国、海外展開を視野に入れた景観保全も訴えた。

宮崎大学賞には「The Day」記憶に咲く(宮崎大農学部3年古賀紅葉さん、4年今西実美香さん)、You&UMK賞には「Omusbis」出逢いまで最短ルート。人×飲食店のマッチング(宮崎公立大人文学部1年安藤百香さん)が選ばれた。審査員は地元企業や投資企業の代表や幹部らが務め、新規性や実現可能性、表現力などを評価した。坂本さんらは「商品化につなげ、南国宮崎の象徴的景観の維持にこれからも寄与していきたい」と話した。

(池田朋美)

著作権は宮崎日日新聞にあります。